フレーベル自傳（第十二回）

（マイニンゲン大公に宛てたる書翰）

倉橋惣三譯

親の家に連れ戻るばかりでなく私自身も教育者として是非とも必要であると感附いた自然科學の智識を相應に收めるために何處か獨逸の大學で研究して自身に備へをなすべく現在從事して居る教育事務を見捨てゝ了はうと決心しました。

一八一〇年私はイベルドンを去つてベルン、シャッフハウゼン、スッツトガルトを經てフランクフルトへ歸着しました。

私はすぐにも大學へ行くつもりでありましたが翌年の七月まで今までの位置に止まつてゐなければならぬことになりました。

片々たる教育事務に取圍まれてゐるのは氣の重くなることでした、それ故私が遂に私の位置から

八十四、完體としての人類

古語教授の最上の方法に對する滿足な判斷のよすがを得べく私はその頃イベルドンに滯在してゐた若い獨逸人に就て希臘語と羅典語とを學びました。而かも同時に一面に於て私は實際教授に當つて逢遭する重要な諸點を省察して自分自身の發明に係る方法を構成しつゝありました。

けれども普通教育法及び人類教養の一部分として古語の教授が充分に行はれてゐないといふこと、殊にそれが理解的な必須的な教育法として將又イベルドンに於ける教育教授が基く所の諸原理の不定動搖を超越する博物學の考察の缺如といふことに關聯してゐましたので私は私の生徒をその

自由に私自身を振り離すことが出來るやうになつた時極度の喜悅を感じました。

一八一一年の七月の初頃私はゲッチンゲンへ行きました、學期の中途ではありましたが私は速座に出かけたのであります、何故ならば私は私の內的生活を外的生活と調和させ私の思想を私の行動と一致させるべき手心が分るまでには數ヶ月を要するであらうと考へたからであります。而して私が私の心の內に平安を得又私が私に取つて大切な內的生活と外的生活との結合並びに目的と生涯と方法との間に橫る等しき必要の認めらるゝ調和に達するまでには實際數ヶ月を要したのであります、完體としての人類、偉大なる渾一としての人類は今や私の潑溂たる思想となりました、私のこの概念を常に心に浮べて居りました。

私は私の小さな內的世界を私以外の大きな世界とにその實證を追求しました。私は多くの苦鬪を經てそれを獲やうと望みました、而してそれを立派に發表しやうと思ひました、斯くて私は我が地球に於ける人類の始めての出現、始めて人類を迎へたる地及び人類の始めての表現卽言語といふものに思ひ至りました。

八十五、ヘブライ語とアラビア語

語學的研究、語學の習得、哲學等は今や私の研鑽の對象となりました。東洋語學の研究は私の調査が私を誘つて行つた中心であり泉源であるやうに私には見えました、而して私は直ちに東洋語學研究の第一着としてヘブライ語とアラビヤ語とを始めました。私はヘブライ語とアラビヤ語とによつて他の亞細亞系の語學殊に印度語と波斯語とに達することが出來るやうに朧氣に考へてゐたのであります。

私は是等の語學の研究に就て私の聞いたことによつて、それからその少年期に於て——卽ち波斯人と獨逸人との間に關係の存することを認めることによつて力强く刺戟され惹き付けられました。

希臘語も亦その內的に充實して居ること、組織的なること、正確なることのために特殊な意味で私を惹き付けました。

私のすべての時間とエネルギーとはヘブライ語とアラビヤ語とのために献げられました。然るに私は正眞正確の熱心と自分を持すること嚴であつたにも拘らずヘブライ語の研究を止めて了ひました、といふのは自分の心に適つた語學を眺める仕方と初步の敎授が與へらるゝ仕方との間に私の越えることの出來ない罅裂がありました。

語學が私に提供された形に於て私はそれを活學問とするよしがありませんでした、而かもそれにも拘らず私が敎育ある人々によつて是等の研究、殊に印度語及び波斯語の研究が實際に於ては私の狙つてゐた目標とは違つてゐるといふことを確められなかつたならば何物も私を私の語學的研究から引き離すことは不可能であつだでありませう。

ヘブライ語も亦顧られなくなりました。けれども一方に於て希臘語はすつかり私を魅了してしまひました、而して殆んど私の全時間と全勢力とは遂に最もよき本の助けを以て希臘語の研究に費されました。

私は今や自由で幸福で精神的にも肉體的にも健全で活氣に充ち滿ちて居りました、而して私は一度微恙のために二三週間私の室に籠つてゐた外は油斷なく勉强を續けて心內にも心外にも平安を得ました。終日一人で勉强した後落日から親しげな光の挨拶を受けるために夕方遲くなつて散步をするのが常でありました。

私の體格に劣らぬやうに私の心にも元氣を附けやうと思つて私は夜半近くなるまでゲッチンゲンを取圍んで居る景色のいゝ近隣を步くことが間々ありました。

きら〳〵と輝く星空は私の思想とよく調和しました、而してこの頃天に現れた新しいものはひどく私を驚異せしめました。私は極く少しゝか星學

を知りませんでした、それですから大きな彗星を期待するといふことは私には全く分つてゐませんでした。それ故私は自分でその彗星を見附け出した譯になります、而してこれが特別の興味の源泉であつたのであります。

この彗星は靜かな夜毎に私の思索を吸ひ寄せました、而してすべてを包み廣くひろがつてゐる上なる法規と秩序の世界を考へることが夜毎のそゞろ歩きの内に特殊な力を以て私の心の内に發達して來ました。

私は屢々是等の默想の結果を速かに書き記すべく家路を急ぎました。而してそれから暫時眠りに就いて私の研究を始めるべく再び起上るのでありました。

八十六、恩人たる二人の叔母

斯くてその年の夏季の後半も瞬く間に過ぎ去り聖ミケル祭（九月二十九日）が來ました。

私の内的生活の開展はしばらくすると知らず識らずの間に語學の研究から少しつゝ私を引き離して行きました、而して自然物の底に横つて居る渾一に向つて私を導いて行きました。

私の初期の計畫は漸々最初の形式及び要素に於ける自然を研究すべく再びその主張を繰返して來ました。この計畫のために大學にもつと止まつてゐる必要がありましたが私の手許に殘つてゐた學費は非常に乏しいものとなつてゐました。

自分の一本立ちの力にたよる他何物もたよりとするものはありませんでしたので私は最初私の力を或る實際的の事柄——文學的の著作といふやうなものに傾けて私の目的を達しやうと思ひました、私は殆んどその準備に取掛りました、然るに丁度その時豫期しなかつた遺產が私の全境遇を變へてしまいました。

これまで私は母方の一人の叔母を有つて居りました、この叔母は私の鄕里で健やかな身體を保つて誰に氣兼ねもせずに安穩に暮してゐたのであり

ます。この叔母が突然死去しましたので思ひも掛けず私は私の熱望してゐた研究を續行すべき學費を得ることが出來たのであります。

この出來事は甚だ強い印銘を私に與へました、何故ならばこの叔母は私が教育者としての生涯を始める動機となつたクロス、ミルホー行きを可能ならしめた遺產を私に殘して死んだ叔母の姉妹であるからであります、而して今や再び愛する人の死が教育者としての私の生涯に必要な高き教養を得ることを可能ならしめたのであります。

母の兄弟姉妹は非常に深く私の母――ずつと以前に早くもこの世を去れる――を愛しました、而して母亡き後はその子なる私に向つてその愛を掛けてくれたのであります。

死によつてより高き生活とより高き天職とを私に與へてくれたこの二人の愛する叔母が私の仕事と私の生涯とによつて永久に生命あらんことを。

私の境遇は今や甚だ愉快なものとなりました、而して私は未だ嘗つて感じたことのない慰藉的な愉快な勢力を感じました。

秋季休暇にも睦じい家庭が私を待つて居りました。屢々私の生活のために盡してくれた田舍に居る僧侶の兄の外に私はもう一人兄を持つて居りました。この兄はハルツの山間なるオステルローデの町で成功した商人として又オステルローデの市民として十年以上もその土地に住つて居りました平和な控え目な幸福な家族の主人で、五人許りの子供の父でありました。

私の教育者としての前々からの生活と努力とは既に私をこの家族に接觸せしめてゐました。何故ならば兄はその子供のために苟くもせざる教師であり教育者でありましたので私は何でも兄の要求と合致するものを見附けると直ぐそれを兄に知らせてやることを怠りませんでした。

私は大學の規則がその忙しい學業から私を解放

してくれる休暇の全部をこの智識的な商人の家庭の平和な生氣に充ちた家族の間に過しました。

この訪問が私の總體の發達の上から言つて私に非常に役立つたといふことは勿論であります、而して私はたゞそのことのために今でも思出して感謝の念に耐えません。

私は今や私の學生生活に歸りました。物理學、化學、鑛物學及び一般に博物學と稱するものは私の主なる研究問題でありました。

すべてのものを包括しそれ自身に於て條件附けられ欠くべからざらしめらるゝ內的の法則と秩序は今や明かにそれ自身を私に向つて現し始めました、而して私は自然界にも人生にも、その數種の表現によつて複雜差等に大なる相違があるとはいへ、この秩序の現れてゐないものを見ることは出來ませんでした。

丁度この頃フランス及びイギリスの哲學者の偉大なる諸發見が一般に知られるやうになり、それによつて多種多樣な外的世界が理解的な外的渾一を形造るやうに見えました。而して是等の本質的に條件附けられた根本的の諸法則をそれらの最も正確な表現に於て又それらの相互交易及び結合に於て研究したり理解したりすることが出來るやうに重量と數との用語を以て現さうとする獨逸及び瑞典の哲學者の骨折は私の憧憬と努力とに丁度適合しました。

八十八、ワイス教授の講義

自然科學及び自然研究は活氣ある現象の截然たる平面に屬すると同時に人類の進展、教養、教育の法則と進歩の跡とを明瞭にし定義することに於て役立つ所の基礎であり親石であるといふやうに私には思はれました。

斯る研究が全く私を惹き付け、私の全エネルギーを働かし而して私を最も忙しくさせてゐたといふことに不思議はありません。

私は能ふかぎりの熱心を以て化學と物理學とを

研究しました、けれども物理の教授は化學の教授程充分に私を滿足させてくれませんでした。現半學年に於て理論的な立場から考察してゐたことを次の半學年に於て私は實際生活の要求として實地に研究して見やうと心掛けました。乃で私は有機化學と地質學とに移つて行きました。

私は私が自然に於て認めることの出來た法則を人の生活と行動とに試みやうと望みました。それ故に私はそれまでの研究に歴史と政治學と經濟學とを附け加へました、是等の實際的智識は人の所有し得る最も價値ある富は教養せる心及びその自然の條件より生ずる事柄の適當な練習の中に横るといふ大眞理を明かに私に思ひ返させました。

私は更に富といふものは經濟的な使用によつて貯蓄せらるゝばかりでなく生産力からも生ぜしむることが出來ること及びその産出品はすべての中最も價値あるものなることを知りました、この産出品は高尚な觀念若しくは驚嘆すべき思想の結果であり表現であること及び最後に政治學そのものゝ煎ずる所自然及び人生の必要上から心靈と意志の自由に人を向上せしむる手段に過ぎないといふことを知りました。

私は大學で博物學の講義を聞いて大なる便益を受けてゐる間に結晶學、鑛物學及び物理學の固定した形式に關して與へられた意見に同意することが出來ませんでした。

ベルリンのワイス教授の博物學講義の噂を聞いて私は同教授に就いたならば正しい意見を得ることが出來るであらうと感じました、而して私の學費はゲッチンゲンにもう一學期全部止まることを許しませんでしたし又一方ベルリンへ行つたら教へながらも彼地で學生生活を送れやうと考へましたので私はワイス教授の下で鑛物學、地質學、結晶學を研究したり物理學と物理的法則とを調べやうと思つて次の冬の學期の始にベルリンへ行かうと決心しました。

オステルローデに兄と共に二三週間止まつた後一八一二年の十月私はベルリンへ行きました。

私の期待してゐた講義は思ひ通りに私の心靈の要求を叶へてくれました、而して前にも增して熱烈に宇宙の全進展の可證的な內的結合の確實性を私の內に呼び覺してくれました。

私は又人類がこの宇宙の絕對的渾一並びにその渾一の內にあつて常に己を開展しつゝある事物、外貌の不同を意識し得るやうになるものであるといふことを知りました、而してそれから人の生活、仕事、思想、感情、位置に於ける限りなく異つた現象もすべてその人の個的存在の渾一に於て約められるといふことを意識しはつきりその事を心に思ひ浮べた時私はもう一度敎育問題に私の思想を傾けたいと感じました。

私は大學で充分研究して行くことの出來るやうに或る評判のいゝ私立學校で敎師をして居りました、この學校での私の仕事は滯在中私に充分な衣食を附與した外何等積極的の効果を私の生活の企圖に與へませんでした、何故ならば私はこゝの敎育課程に高き靈智、高尙な目的、渾一といふやうなものをどれ一つとして見出すことは出來ませんでした、不祥なる一八一三年は來ました、すべての人々は武器を握り互に勵まし會ひ祖國の難を救ふべく警備に就きました。

私も亦故鄕を有つて居りました、眞實生れた土地を有つてゐたのです、私はそれを母國と呼びたいのです、けれども私は祖國を持つてゐるとは感じられませんでした（譯者註、フレーベルは祖國を以て獨逸聯邦全部を現し母國を以てフレーベルの故國を現すものゝ如し）。私の故國では私に援助を回附しませんでした、私はプロシヤ人ではありませんでした。それで（ベルリンでは）誰も彼も皆武器を執つて起つたといふことは引込思案の生活をしてゐる私に些の感動をも與へませんでした。

九十、銃劍を執りし理由

私を獨逸軍隊に投せしめたのは全く他の感情であつたのであります、私の熱誠は或は欠けてゐたかも知れません、しかし私の決意は岩の如く極めて强固でありました。その感情といふのは私が常に心の內に高き嚴かな理想として懷いてゐた純粹な獨逸友邦の意識でありました、獨逸全國に遍く充分に自由に感ぜらるゝことを切に希望してゐた所の感情でありました。その上敎育者としての私の職業に對して私の持してゐた忠實がこの事に關しての私の行動に影響しました。

私に父國を有するといふ感情がなかつたにもせよ、私は後年私の敎育を受けるべき少年達が父國を有つことを認めなければなりません、而してその父國は今や防護を要するの秋です、而かも少年達は未だ防護の任に當ることは不可能であるのです、この事も思はねばなりません。

武器を執つて起ち得べき若者が要求されながらも彼の血を以て、生命を賭して防護することを拒絕した國の少年達を敎へるといふことを想像することは出來ません、戰鬪を恐れて引込んでゐて恥ともしなかつた者が後年赤面しないで生活して行くことを想像することは出來ません、又斯る人間が嘲罵と冷笑に彼自身を曝すことなくしてその生徒に高尙な行爲を要求したり、犧牲無私の事業をなすべく奬勵したりすることは出來ません。これが私を動かした第二の主なる理由であつたのであります。

第三にこの召集は共に住へる人々、私の生存してゐる時代、私の生存してゐる土地の一般の要求のあらはれであるやうに私には見えたのです、而してこの一般的の要求に對して戰鬪を斥け一般に降り掛つて來る危險を防がずに傍觀してゐるといふことは意義のないことであると同時に男らしくないことであると感じました。

この確信の前にはすべての顧慮——斯る奮鬪的

な生活に對しては餘りに華奢に出來上つてゐる自分の體格の顧慮さへも屏息してしまひました。

九十一、エルベ河畔の乾杯

私は同僚としてルッツオーウエルスを選びました、而して一八一三年の復活祭季節に私はライプチヒのルッツオー軍團の步兵部隊に入隊すべく途中ドレスデンに到着しました。私は自己集中の生活を送つてゐましたので自然性質は引込思案となり、自分が正式に入學した生徒であるにも拘らず他の生徒と昵近にならず彼等の中にお仲間を得ることは出來ませんでした。それでドレスデンで會つた勇しい同僚は大抵私と同じくベルリンの學生でありましたが私は彼等の中に一人も知人を見出しませんでした。

私は軍隊で極く僅かの友を作つたゞけです、而してその友といふのも私が軍隊に入つた最初の日に知合になつたのです。第一日の朝ドレスデンから行軍して駐軍した時に軍曹が私にチユーリンゲン人としてエルフルトから來た同僚、つまり同郷人を紹介してくれました。その人はランゲタールでありました。二人の友誼は斯くも偶然に始められたものではありますが、それは長く長く交際を結ぶ緒であつたのであります。

我軍の最初の日の行軍はマイセンまで、その日は其處に駐屯しました、私達は行軍してゐる間春らしい長閑な天氣でありましたが私達の駐軍は晝間にも增して美しい夜によつて祝福されました、氣が附いてみると軍團の大學生は皆同じ衝動に驅られてエルベ河の岸邊や酒場の近傍の打開いた場所に集合して居りました、而して古いマイセンの酒を拔いて互に契りを固くしました。

私達二十人許の强者は長いテーブルを圍んで大きな塊をなし互に友誼のために祝盃を擧げ始めました、此處でランゲタールは私にベルリンの彼の學友を紹介してくれました、それはマークから來てゐる若い神學生でミッデンドルフといふ人でし

た、美しき春の夜の夜半まで樂しく語り合ひ翌朝は私達は相伴うてマイセンの莊麗な大會堂へ行つてみました。

斯くて私達三人はより高き生活のためにする共通の戰鬪に於て最初から固い契りを結びました、而して私達は外部の結合に於て當時と同じやうな緊密な關係を結んでゐないにもせよ、その時から十五年も過ぎた今に於て尙私達は內的生活並びに自己修養に對する努力を追求することに於て決して友誼を失はないのであります。

九十二、陣中の讀書

ランゲタールもミッデレドルフも同じ部隊の中にバウエルといふ今一人の友を有つて居りました、私は彼とも多分マイセンで知り合ひになつたと思ひますがバウエルと私とが今に變らぬ友誼を結ぶやうになつたのは其後ハベルベルグに於てゝありました。

私達は外的生活を共にしない時に於ても至高至善なるものを追求する努力に於ては常に一體となつて居りました。

バウエルは我が部隊の中に私達の狹い一群(サークル)をまとめて行きました。

私は以前の生活の仕方に裏切るやうなことはしませんでした、而して私が新しい軍隊生活に對して懷いた考へ方で考へました。

私の主なる注意は常に召集(私はその時召集されてゐたのです)に向つて私自身を敎育するといふことにありました、それですから私は先づ第一に訓練と軍務の諸部分の內的の必要と關係を見出さうと企てました。私はそれまでに全然軍隊敎育を受けたことはありませんでしたが私の數學と生理學の智識のお蔭で左したる困難をも感ぜずに立派に私の企劃を完ふしました、それ故私は骨折るに足りぬと高を括つてゐた連中の上に屢々落ちたお小言を頂戴せずに濟みました。

斯くて休戰の期間の後に私達が絕えず訓練を受

けてゐる時に私は私達の施されてゐる軍隊教育の行動が規則正しく明確で四角四面であるといふことに混りッ氣のない愉快を覺えました。軍隊教育を深く立入つて調べて見るとその認められたる必要の下に自由のあることが分つて來ました。

先に一寸述べたハベルベルクに於ける我が軍團の長逗留の間に私は私に許されたる時間の全部を大氣に接し自然に親しむことに費し私の内的生活を強めました、その頃丁度耽讀してゐたゲー、フオルステルの「ラインランドの旅」は私の感覺を新に自然の美しさの知覺にまで開いてくれました、私達友達同志は努めて互に會ふ機會を取りました、暫時すると私達は三人一つ所に宿泊して容易く互に會ふことが出來るやうにしやうと運動し始めました。

戰爭の倉卒な淡泊な生活に於て人々は種々な形貌に彼等を現して彼等の行爲、彼等の活動的な仕事而して彼等の多くが有する高き天職に關する私の考察の特殊な對稱となりました。人及びその教育といまことは散歩の際及ひ屋外生活に於て常に私達の頭の中にあつた問題であります。私が私達の中での最少年者ミッデンドルフと論を戰はしたのは殊にこの種の問題でありました。

九十三、戰爭より得たる便益

私は露營生活を好みました、何故ならばそれは歴史の多くを私に明かにしてくれました、而して又屢々續く烈しい勞働的な行軍と機動演習を通して身心の相互關係を私に教へてくれたからであります、それは戰時にあつて個人といふものが如何に尠く彼自身に屬するかといふことを示してくれました、個人は大なる全體の原子に過ぎません、而して原子としてのみ個人は考へられなければなりません。

我が軍團が實戰場から遠退いたので、機動演習によつて烈しい勞働が原因され私達が緩漫な戰報を耳にしてゐながらも私達は私達の軍隊生活とい

ふものを――私は少くも之れまで軍隊生活を送つてゐたつもりです――夢のやうなものとして考へることになりました。時々ライプチヒやダレンブルクやブレーメンやベルリンに於て私達は呼び覺まされたやうに覺えましたけれども直きに再び弱々しい眠りに沈んでしまひました。

大戰役の片割れとしての自分の地位を掴むことが出來ないといふこと、私達の機動演習の理由と目的とを充分に說明せられないといふことは私に取つては特に意氣を沮喪せしめることでありました、これは私に就ていふことで他の人々は私よりもよく明かに知つて居たのかも知れません。

私は戰爭から一つの明かな便益を得ました、實際の軍隊生活を送つてゐる內に私は獨逸の國土と獨逸の國民との最高の利益に熱心になりました、私の努力はこの意味に於て國民的になりかけて來ました。而して大體に於て私の勞役が許す範圍に於て私は私の末來の地位を常に考へて居りました、小競合に參加してゐる場合にも何か自分の末來の仕事に役に立ちさうな經驗を集めることが出來ました。

我が軍團はマークを過ぎて進軍しました、而して八月の下旬にブリーグニッツ、メクレンブルグ、ブレーメンとハンブルグの諸地方及びホルスタインを過ぎて一八一三年の最初の日にラインに到着しました。

九十四、鑛物博物館の助手

平和が（一八一四年五月三十日）私達の巴里を見ることを妨げました、而して私達は軍團が解散するまで和蘭に止まつて居りました。遂に一八一四年の七月に軍務に服することを希望せぬ向きは故郷へ歸り、元の職業に立ち返ることを許されました。

プロシヤ軍の軍團へ入隊したので私は或る善き友の盡力によつてプロシヤ政府の或る官職に就く豫約を有つてゐました――卽ちワイスの下に就て

ベルリンの鑛物學博物館の助手の官職に就くことになつてゐたのであります、それで私は私に運命づけられた仕事の第二の場所として私の歩みを其の地に向けました。

私はラインとマインと私の故郷とへ行つて見たいと思ひました、乃で私はデユッセルドルフを過ぎてリユーネンへ戻り其處からマインツ、フランクフルト及びルードルスタットを經てベルリンへ行きました、斯くて私は兎まれ角まれ私の力によつて生活の渾一及び調和に向つて執念き內的の戰鬪をなしつゝこの全戰役を通じて來て了ひました、けれども私は外的に意義のある追憶に價ひする何物をも軍隊生活から得ることは出來ませんでした。私は軍隊及び好戰的生涯に殘すに不滿足の感情の總計を以てしました。

渾一、調和、內的平和に對する私の憧憬は非常に力强いものでありましたのでそれは知らず識らずの間に豪徵的な形と姿にそれ自身を現すに至りました。

憧憬と不安の小歇みなき解き難き苦惱の狀態を以て私は故郷へ歸る途次、多くの美しき土地や多くの花園を過ぎてゆきました。しかし何處を見ても私の心は引き立ちませんでした。

斯うした氣分で私にエフ――へ着きました、而してかなり大きな手際よく植え並べられた花壇へ入つてみました、私は花壇に咲き誇る生々した植物や新鮮な赤い花のすべてを眺め渡しました。けれども孰れ一つとして私の心を惹いたものはありませんでした。

私はその花壇の中なるさまざまの美しき花を凝然と見て行く內に不圖百合の花のないことに氣が附きました。私は花壇の持主に此處には百合の花はないのですかと訊きますと彼は靜かにありませんと答へました、私が驚いた樣子を見せると持主は前と同じやうに靜かにこれまで誰も百合の花のないといふことに氣の附いたものはありませんと

言ひました。

斯くて私は私の見たがつてゐるものあこがれてゐるものが何であるかを知ることが出來ました。私の心の内がこれ以上の美しい言葉で現はされることが何して出來ませうぞ。

汝はこの沈默せる高潔にして淸楚なる百合の象徵によつて心の靜けき安寧、生活の諧調、心靈の明潔を求めつゝあり。

九十五、象徵の百合の花

美しき變化に富めども一の百合の花を有せざる彼の花壇は私には了度渾一及び調和なしに徒費されたる華かな生活のやうに思はれました。

又或る日私は田舍家の庭に多くの愛らしき百合の咲いてゐるのを見ました、私は非常に悅びました、けれどもあゝ、それは生垣によつて私からは隔てられて居りました。

その後私はこの象徵をも會得しました、而してそれが了解されるまで私の胸には影像と憧憬とが滿ちて居りました。こゝに注意すべき事が一つあります——といふのは私が花壇に百合の花を求めて得られなかつた土地に於て三歲になる小さい男の子が私の側へ來て實直らしく立つてゐたといふことです。

私は私の新しい職務の舞臺へと急ぎました、今や私の生活は再び確かな個的形式を取るやうになりましたので私の生活の種々なる外的事情が内的の生活に關して私に如何に影響を及ぼしたか又如何に私の生活が再びその眞實にして高尙なる形貌を取るに至つたかをこゝに述べることは止めませう、何故ならば是等の考察をそのすべての隨伴事件と共にして開展するとあまり長くなるのを恐るゝからであります。

一八一四年の八月の初頃に私はベルリンに着きました、而して直ちに私の豫約してあつた任命を受けました、私の職務は私に一日の中大部分を鑛物の中に、自然の沈默せる變化窮りなき創造力の默せる觀察の中に忙しく過させます、而して私は鎖された極く靜かな室でそれらの配列に注意しな

ければなりませんでした。

この仕事に從事してゐる間にも絶えず私は今まで長い間豫覺してゐた事の眞實であることを確信しました――卽ち岩床から拐ぎ取られたこれらの所謂無情の石及び岩の斷片の中にさへ變化發達するエネルギーと活動の萠芽とが現れて居るのであります。私を取卷いてゐる形式の不同の中に私はあらゆる變化の下に通ずる進展の一つの法則を認めました、ゲッチンゲンに於て心靈の進展の秩序を確證する外的事情の中に私が跡を辿つて來たと思つたすべての事柄が此處に於ても亦幾百といふ現象となつて私の前に現れて來ました。

私が偉大なるもの高尙なるものに於て、人間の生活に於て、將又神の道に於て人間種族の發達のために役に立つと認めた所のものを私は自然のみが形造る所の是等の定つた形の最も小なるものゝ中にさへ認めることが出來るといふことを發見しました。

私は未だ嘗つて經驗したことのない位明かに神に似たるものゝみが偉大であるのではないといふことを知りました、何故ならば神に似たるものは甚だ小さきものゝ中にもあります、それは最も微小な容積の中にもそのすべての全さと力とを以て現れて居ります、而して其後は岩石も結晶も人類並びに人の進展及び歷史を見出すことの出來る鏡のやうな役をしました、是等のものは私の內に力强く活動し始めました、而して私が今朧氣に知覺したことを私は直きにもつとはつきりと考へるやうになり綿密に研究することが出來るやうになりました。

九十六、大學教授たり得ざる二欠點

地質學と結晶學とは智識と洞察力のより高き部內を私達に見せてくれるばかりでなく私の考究、思索及び努力のより高き目標を私に示してくれます。自然と人とはそのすべての無數の進展の階段によつて互に說明しやうとするやうに私には見えました。

私の見る所によると人といふものは自然物の智

識から、殊にそれが根底から全然不同であるがために彼自身に就ての智識の基礎と案内及びその智識を表現する準備を授かります。

私が簡單な自然物の中に斯くも明かに知覺し得たものに就ては私は直きに私の注意を惹く生きた自然界卽植物に、延び行くものに、動物界に、その證跡を探りました。間もなく私は是等の心持をその孤立せる上昇的な階級に於てのみでなく生活の全部を通して正確に直截に際立たして置くといふことが人間の敎養及び發達のために、人間の天職の遂行のために、活氣ある何物にも勝つてゐるといふ考へに全然浸徹され吸引されて了ひました。

その上私は高等敎育の中心、出來ることなら大學の敎授にならうと思つて高等敎育法を研究しやうと決心しました、けれども間もなく私はこの思附に於て私を速かに失望させた二つの欠點を發見しました。それは第一に私は特別に研究したものがなく古學の修養に乏しいといふことでありました、次ぎには私は自然科學の高等部門に必要な準備的研究を經てゐないといふことでありました、けれども大學生がその學課に對して懷いてゐる興味は左樣な點にまで立入つて私を苦しめやうとする程無心ではありませんでした。

私は直きに二つの眞理を知覺しました。第一に人といふものは早くから自然に就ての智識と自然の方法の洞察とに導かれねばなりません——換言すれば人といふものは最初からこの考を以て特別に訓練されねばならぬといふことであります、それから第二に生活進展のすべての階段を經て導かれた人々はその目的、天職、天命を遂行させるために極く始めから誤つた觀念を持つ人々や粗忽な人々と一緒にならぬやうに注意されなければならぬといふことを知つたのであります。乃で私は人の敎育といふ普遍的な事業に自分の一身を献げやうと決心しました。

鑛物學、結晶學、地質學等の立派な講演が私をして自然の仕事の均一なることを悟らしめましたが而かも尙より高くより偉大なる渾一が私の心に

ありました。例へば種類を異にした根本の形のあつまりから進んで來た形を見るといふことは私に不滿足の感を起させました。

私の思想と努力の前に横つてゐた對稱はすべて他の形がそれから引き出されるやうな典型原理となるべき自明の形に於て外的の形の下に横つてゐるより高き渾一を持ち來すことでありました。

けれども私は形の法則を結晶のためにばかりでなく國語のためにも同樣に確固と定めたいと思つてゐましたので最後に私の思想を惹きつけたものは國語に對する特に深い哲學的の見解でありました。

九十七、國語に對する哲學的見解

餘程前に瑞西で私の考附いた國語に關する觀念が再び私の心に群つて來ました。

私には母音のアー、オー、ウー、エー、イー、エー、アウ、アイが力、精神、(內的)主觀を現し、子音が物質、身體、(外的)客觀を象徵してゐるやうに思はれました。けれども生活や自然に於ける如くすべての反對はたゞ相對的にのみ反對されるのであつて兩反對はあらゆる群れ、あらゆる世界の中に含まれてゐることが分ります、それ故に國語の中にも話調の世界に主觀と客觀の兩面を知覺するのであります、例へばイーといふ音は絕對の主觀中央を現します、而してアーといふ音は絕對の物質的客觀を現します、エーといふ音はその如き生活、一般に存在といふことを示しオーといふ音は個人生活卽それ自身のみに狹められた存在を示します。

思想を現す道具としてのみでなく、生活のあらゆる形及びあらはれの典型若しくは概要としての國語は表現の一般的法則の下に横つてゐるやうに私には見えました。古語敎授の中に例證されて居るこの法例を充分に學ぶために私は良敎師の下に附いて古語の研究を始めました、而して古語習得のために何ししてもたよなくてはならぬと思ふ特殊の研究法を案出しやうとしました。

この時以來私は私のすべての考案を敎育法に傾けました、私は古代哲學の歷史の批判的の講演を

聞いて更に勵まされました。この講演は私に私の自然觀及び人類進展の法則の强固であるといふ明かな確信を與へました。

自然の力學的な化學的な義理的な部面を研究の對稱としてゐましたので私は再び特に形を以て示されたる數の法則と考へるやうになりました、而してこれは私を同問題の全然新しい概念に導いて行きました——卽ち數といふものは水平的にのみ關係してゐると考へらるべきものであるといふことなのです。

この問題を斯く考へるといふことは實際に當つて非常に明確である所の算術の極く簡單な根本的の概念にまで私を導きます、是等の（力學的な算術的な）諸現象の結合といふことは私には可證的に見易いことでありました。何故ならば算術は先づ力の現れの外的形貌として考へられ又（それが人間に關係して居るといふ所から）人間の思想の法則の一例として考へられるからであります。

すべての方面に於て自然を通じ、歷史を通じ、生活を通じ、科學を通じ（純正科學を通じ應用科學を通じ、）私は渾一、單一及び人類進展と人類敎育の變ることなき必須課程によつて斯く訴へられ要せらるゝのでありました。

私は私のペンと私の生活の全力を盡して敎育體系の形に於てその渾一と單一とを現さうとする止み難き衝動に驅られるやうになりました。

私は敎育も科學と同じやうに人性に關係のある人性と密接した敎育の題目の取扱ひ及び考察によつて進んで行くものであらうと感じました。

九十八、友に敎育法を敎ゆ

私は又他の原因からこの確信を懷くやうになつたのでした、それは次に述べるやうなものです、

我が友ランゲタール、ミツデンドルフ及びバウエルは私と共に同じ軍團、同じ大隊に屬して戰爭に從事してゐましたけれども私達は戰役の終頃、殊に和蘭に屯營してゐた頃には互に離れてゐることが多くなりました、それですから軍團の解散した時に友は何處へ行くのか分りませんでした。そ

れですから後日ベルリンで皆と再會した時は非常に嬉しく思ひました、私の友は熱心に神學を研究してゐました、私は自然科學を研究して居りました、それですから私達は互に會ふことは極く稀でありました。

斯くて數月は經ました、すると生活は私達を再び一緒に纏めました、これらは一八一五年の非常召集によつてゝあります、私達は皆義勇兵として再び應募しました、私達は前に勤務したことがあるのと皇室の思召とによつて直ちに士官の列に加へられました。しかしながら應募兵が澤山あつたので官吏が職を棄てゝ、學生がその學業を擲つて應募する必要がないことになりました、乃で私達も出征するに及ばずといふ命令を受取りました、直きに出征することゝ信じてゐたミッデンドルフはベルリンへ止つてゐるのは暫時の間と思つて下宿を決めて居りませんでした、而して私のところに二人に充分な室がありましたのでミッデンドルフは私と同宿することになりました。けれども始めの中は互に專攻科目が違ふのであまり緊密な關係を結びませんでした、けれども直きに親密になり專攻科目が違ふといふことが反つて二人を一層親しくさせることになりました。

ランゲルタールとミッテンドルフとは彼等の大學に於ける學費を充分にする爲に學務の妨げとならぬやうに都合よく家庭教師をして居りました、兩人は始めの內は何事も簡易に濟んで行くやうに思つて居りましたが間もなくその托された子供の教授訓練に關して困難を感ずるやうになりました、私達は以前よくこの種のことを話題としてゐましたので兩人は私の許へ相談に來ました、特に數理的教授と算術とに關してはよく私の許へ來ました、而して私達は每週二時間宛空けて置いてこの時間に私がこれらの事柄に就て二人に教へてやりました。この時以來私達の思想の相互關係は再び活氣附けられ間斷なきものとなりました。（了）